

地球の木

♥ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- 黒いヒマラヤの恐怖 1
- 手づくり「ソーラーパネル」ネパールにて発電開始 2
- サワナケート県の村だより 3
- 行ってきました！アジア学院 3
- マンガルタール現地調査報告 4~5
- 日韓絵本作家対談「絵本で伝える平和」 6
- 「横浜下町バラディス祭×多文化映画祭」 6
- グローバルフェスタJAPAN2009 7
- アソシエーション文化祭 7
- 活動日誌 7
- INFORMATION 8

黒いヒマラヤの恐怖

副理事長 堀 千鶴

9年前、地球の木の招聘プログラムで、ネパールNGOソアーズの顧問シュレスタさんが我が家に滞在したことです。地球温暖化により、ヒマラヤの氷河が溶けて氷河湖ができ、それがある日突然決壊し、洪水となって村の人びとの家や畠を飲み込んでしまう話を聞きました。ネパールに住む多くの人びとは、以前から何も変わらない生活をしているのに、「私たちが何か悪いことでもしたのか?」と戸惑うばかりでいるのだそうです。その時までは、温暖化の話を聞いても、「まさか、そんな!私、気をついているもの」が私の答えでした。「他の先進国が引き起こしている環境問題がいけないのだ」そんな気持ちでいた私には、本当にショックでした。

その後もシュレスタさんはヒマラヤの氷河湖の問題に取り組んでいます。現在までに主に7つの氷河湖が決壊し、その被害は村人の命や家、畠だけでなく、橋や道路、水力発電所など膨大な規模に及んでいます。現在危険だと言われている氷河湖は6つあります。氷河湖の水抜きや警報システムの導入などが試みられていますが、ネパールだけでは費用をまかなえないと、国際社会にもその責任を担うよう政策提言をしています。



ネパールスタディツアーの参加者たちと 右端が筆者

途上国の温暖化被害対策の費用は、2010年～2060年の50年で1年当たり750億～1000億ドルになるという試算を世界銀行が発表しました。先進国の年間の途上国援助(ODA)の総額に匹敵する額ということです。国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は2度気温を下げるには、先進国が温室効果ガスを90年代比で25～40%削減する必要があるとしています。

地球の木は地球温暖化や自然エネルギーについて講演会や学習会を開いてきました。学習会で製作した手づくりソーラーパネルをネパールに設置する事ができました。設置場所のひとつである協同組合の人たちは、市民がつくるエネルギー事業の立ち上げにとても積極的だということです。

なぜ「地球の木」がソーラーなのか?これはひとつの問題提起です。これからエネルギー問題を一人ひとりの問題として考え、世界とつながりながら「持続可能な社会」を目指し、ともに解決を考えることが大切だと思います。実は、ヒマラヤの雪が溶けて困るのはネパールの人だけでなく、水源がなくなってしまうという深刻な世界的問題なのです。再生可能なエネルギーである風力や太陽光などの普及には政治的課題解決が大きく関わってきます。そこを動かすのも私たち一人ひとりの仕事だと私は考えます。

ネパールのニルマラさんが「白かったヒマラヤの手前の山々が黒く見える様になって来た」と言ったそうです。この言葉に、何年か前に見たネパールの美しい山々が思い出され、悲しくもあり、皆で考え方行動し、進んでいかなければ間に合わない。そんな思いでいっぱいです。

from Nepal

手づくり「ソーラーパネル」ネパールにて発電開始

今回のネパール訪問は10月3日～14日、訪問者は私と、太陽光発電の専門家である国際協力NGO「ソーラーネット」の川上和男さんの2人であった。地球の木ではシンプルライフ・キャンペーンの一環として、昨年は「エネルギー」に焦点をあて連続講座を開催し、その中で地球温暖化、自然エネルギー、原子力発電、省エネなどの問題を考えてきた。またソーラーパネルづくりもソーラーネットの指導で行い、34Wのソーラーパネル2枚が完成した。それを支援地で役立てたいということで、ソーラーに以前から関心があり、電力事情が非常に悪いネパールに設置することとなった。今回のネパール訪問の目的は3つあった。

1. ソーラーシステムの設置

設置場所は極西部カイラリ郡のコミュニティセンターとカトマンズ近郊イマドール村の人材育成センター（以下センター）に各1枚を予定していた。しかしカイラリ郡は現地の状況から設置が難しくなり、センターから約4km離れたルブ村のサドバ協同組合（以下サドバ）に変更した。イマドール村、ルブ村とも電線は引かれているが、停電が多く、今年の初めは日に10時間、私たちの滞在中は日に2時間、今後3時間になるとのこと。サドバ事務所へのソーラーシステム取付けは、自分たちで半日ほどで終えてしまった。センターへの取付けは、計画、材料調達、施工と延べ4日かけ、サドバメンバーが中心となり行われた。照明は10W、7W×2、1W(LED)の計4灯が取付けられ、明かりがともった時には、一同思わず拍手をしてしまった。私たちの滞在中センターでは、25人ほどの人たちのトレーニングが行われていて、停電中はソーラーの照明がさっそく役に立った。ソーラーパネルがせっせと発電をしてくれている。

2. ソーラーシステムの保守・管理

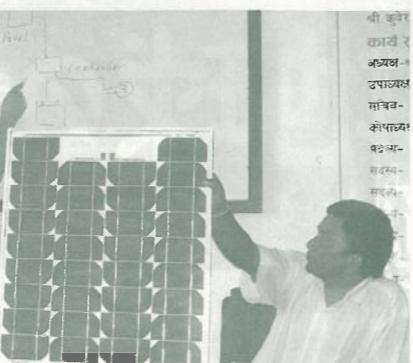
ネパールのソーラーは、販売店が売りっぱなしの状況である。ミーティングでは、（参加者SOARS、サドバメンバー8人）ソーラーネットが作成した英文テキストをもとに、川上さんのインドネシアプロジェクトの経験もまじえメンテナンスのための話をもらった。

3. パネルの製作

SOARS、サドバ共これに最も関心があった。サドバはコミュニティベースのソーラー事業を立上げ、各地域の協同組合へも広げていく構想をもっている。今回設置したパネルは、そのためのデモンストレーションにも役立つとのこと。ミーティングは、（参加者、女性6人を含め19人のサドバメンバー）川上さんが持参した山形県東根工業高校のパネルづくりを、ノート型パソコンで見せながら行われた。サドバには電気に詳しい技術者もいて、川上さんの話ではソーラー事業はかなり有望とのこと。サドバでは外国から入ってくる安いパネルに対抗して本当に事業が可能かを、ソーラーネットのアドバイスを継続して受けながら具体的に検討していくことになる。

今後について

日本側では、技術的なことはソーラーネットに協力してもらいアドバイスをしていく。そして現地で立上げを決めた場合、地球の木ではできる範囲で協力ができたらと考えている。ところで今回設置したパネル出力34Wというと、日本では待機電力に使用してしまうような量といえる。今回のミーティングでは「日本の標準消費電力は1家族約300kW/月、私たちの過剰エネルギー消費がネパールの氷河を溶かすことにもつながる。私たちにはシンプルライフが必要である」と話したので、みなさん、そこんところヨロシク。



ミーティングで説明する川上さん

from Laos

サワナケート県の村だより

ご支援いただいているラオス・サワナケート県における森林保全と持続的農業の活動について、今回は、どんな村人と活動しているのかをご紹介します。

ダミ声村長

井戸修理のための基金づくりや米銀行設立に向け、話し合いが行われているパノンポン村。その村長は、まだ30代後半と村長としては若く、いつもかっこいいジーンズなどはいています。ダミ声の大きな声は、村人の前で話しているとドンドン大きくなり、しまいにはどなっているような調子になります。話す内容も力強く、なかなかリーダーシップがあるようです。それでいて、服装をほめると子どものような照れ笑いを浮かべる人もあります。また、高校まで学んでいて、日本のことを「ジャパン」と言ってご満悦。井戸支援の話がまとまりました。「実はどこそこにも井戸の要望が」などと、これまで全然出ていない話を切り出す村長。「それ、聞いてないですよ～」と言うと、「エヘヘ、まあ、この話はまた」なかなかやり手もあります。

酔っ払い元村長

某村の元村長は、立派なお腹と人のよい笑顔の持ち主なのですが、ときどきお酒のにおいかすることも。飲みすぎて「話し合いばかりして、なにもやってくれないんだったら、もうお前らとは会わん」などと言ったこともあります。このときは周りの村人も「酔っ払ってるから」とやや呆れ顔。でも、酔ったときは本音が出るというからなあ…

女性も元気

村での話し合いでは、どうしても男性中心になります。そんな中でも、農民交流参加者を決めるときに「女性も同じ権利があるのだから」と主張したケンメオ村の若い女性教師、いつも前のほうに座り、笑顔でユーモアたっぷりな発言をするパノンポン村の年配の女性、企業の土地取得について決然と怒りを表明したナーカノン村の女性など、元気な女性は各村に見られます。今後は、こういった女性の力をより活かすことを考えて活動を組み立てていきたいと思います。



タケノコの下ごしらえをする女性たち

(JVCラオス事務所現地代表 平野将人)

行ってきました！アジア学院（9/27～28）

上野駅からアジア学院のある栃木県那須塩原までは列車で2時間40分。今年4月からそこで研修中のJVCラオス現地スタッフのフンパンさんを、ラオスチームメンバーを含めた会員7名が訪ね、また農作業（もち米の刈り入れ）も体験してきました。

マイクロバスの出迎えで到着したのは夕刻であった。さっそくフンパン氏からここでの生活や研修内容について話を聞く。座学という教室内での授業はすべて英語。日常会話も当然ながら、各種レポートも英文提出で最初は、それは大変だったとのこと。しかし今や研修期間半ばを過ぎ、生き生きと体験を語るフンパン氏は晴れやかで誇らしげ。応援しているこちらも嬉しかった。彼はラオスから3人目の研修生だという。

ホールでの食事は3回、研修生と一緒にいた。今年は19ヵ国から研修生を受け入れているという。丸テーブルの席は自由で、毎回メンバーが変わる。ドイツから来ている牧師の青年（ドイツからは兵役拒否で結構、研修生が来るという）。南米コロンビアからの大学生は色白の丸顔にくっきりした眉毛、環境開発の単位取得のため、やって来たという。日本人だと思ったらネパール人だったり、「ずい分日本語がうまいんですね」と言ったら日本人だったり。

忘れない味がある。朝食で飲んだ温かいジャージー牛乳。クリーミーで甘く、心がほつとした。ジャージー牛については朝食前のレクチャーで学んだ。目元が愛くるしく端正なその顔も忘れられない。その母牛一頭で研修生30名と常駐スタッフが毎朝飲む牛乳が貯われているという。

野菜畠は、植物の特徴を生かして、互いに補完し合い連作障害や病虫害のリスクも考えて、多品種少量栽培であった。学院の食糧自給率は95%。残り5%は調味料と油類。近くの小学校の給食センターから出る食べ残しで堆肥を作っているという。大量に出るコンビニ弁当は塩分が多く使用できないこと。

日本の農業がどういう方向に向かうのか正直全く分からぬ。一部には大規模な農業法人というスタイルも増えているようだ。しかし人手も資本もないが小さいがゆえに小回りが利きリスクにも強いやり方のヒントが、ここにあるのではと思う。

食べることは生命を絶やさない毎日の喫みであり「待ったなし」である。経済大国と言われながら自前で食糧を供給できない日本。このまま良い訳はない、と強く感じた。

(ラオスチーム 木谷博子)



記念撮影 たのしそうですね…

from Cambodia

カンボジアでは雨季が終わり、涼しい季節になってきました。タケオの職業訓練センターでは、少女たちは皆元気で、がんばって注文品を作っています。7月に地球の木のメンバーが訪問時に注文したシルク小物やスカートなどもうすぐ全部出来上がるそうです。（センターの責任者 ソテヴィー先生の話）

前回から登場した自然染色のスカーフは大変好評で、様々なイベントやお祭りなどでも人気商品となっています。来春には、地球の木オリジナルのブックカバーやカードケースのほかに、新しいパターンのスカートも登場する予定です。どうぞお楽しみに！

(クメールシルクチーム 筒井由紀子)





マンガルタール現地調査報告 (8月23日~9月1日)

(幸せ分かち合いチーム 紗谷士都子・岸 夏代)

教師の住む集落の小学生たち

今回の調査目的は、ムーブメントの進捗状況の確認、現地NGO SAGUNのメンバーとのムーブメントに関するコンセプトの共有化、村の状況確認でしたが、概ね順調なスケジュールで調査を完了しました。

まず、幸せ分かち合いムーブメントは、個々のプログラムが柔軟なスケジュールで、コーディネーターの細やかな働きにより、たくさんの目に見える成果がありました。第一期、第二期奨学生の一部は、12年生の終了試験合格の難関を突破し、第三期の奨学生は進級しました。現金収入のための野菜栽培トレーニング、参加型授業を学ぶ教師トレーニングも計画通り行われています。またムーブメントの機関紙「ロシ・ラハール」も第3号までが発行されました。紙媒体の全くない村から発信されたこの小冊子は、村の学生や、村を訪れた日本人など、ごく普通の人たちの記事（ネパール語）が満載です。写真の入った活字の発信メッセージが与える、村をはじめ周辺地域への影響は、とても大きいものがあります。

村人参加型の開発モデル地区としてのマンガルタール村では、ユースクラブ、女性グループ、識字教室、水管委員会など多くの活動が行われています。女性も多く発言します。このムーブメントはこれまでこういった活動に参加しにくかった人々も巻き込んでいけることもねらいです。

なぜ、「ネパールの幸せ分かち合いムーブメント」を地球の木がやっているのか。

それは、プログラムや交流を積み重ねて、村人も、SAGUNも、地球の木も、小さな成功体験を丁寧に積み重ね、従来のドナーと支援される側の関係作りではなく、それにかかわっている一人ひとりが、深い部分で繋がるため。そして、その繋がりの中で生まれた力が、知性や、好奇心や、向上心と結び付くことで、暴力的とも言える大きな格差を生み出す社会構造の悪循環から、意識的に抜け出ができるひとつの方法となるからといえましょう。これらのプロセスこそが、「幸せ分かち合い」だと言えます。

(岸 夏代)



シュリ・マンガル・ジャナ・ビジャヤ高校

校舎はクリーム色に塗り替えられ、「学校には政治を持ち込まない」というスローガンが書かれている。以前はマオイストの標語が一面に書かれていた。学校は兵士を求める恰好の場所だった。今は学校の領域を「ピースゾーン」とし、生徒を守っている。

感謝の気持ち

私は6年生からシュリ・マンガル・ジャナ・ビジャヤ中高校で学び、SLCに合格しました。11年生に進学したのですが、勉強を続けたいと強く願っていたにもかかわらず、家庭が貧しかったため学費を払うことができませんでした。そんな時、SAGUN／地球の木より奨学生金をいただきました。勉強を続けることができたことは、私にとって大きな励みとなりました。

奨学生となった後、4日間の調査のためのトレーニングに参加する機会を得ました。たくさんのこと学び、私の住む村の情報を集めることができ、とてもうれしく思いました。日本の人たちと一緒に活動もしました。

もし勉強をあきらめて家事を手伝っていたら、このような経験は決してできなかっただでしょう。学ぶ気持ちを強く持ち続けてよかったです。この機会を与えていただき、心から感謝いたします。私の勉強は必ず成功させます。

サッジヤ・タマン (12年生)



*SLC: 10年生を終了して受け取る高校終了認定試験



「ロシ・ラハール」と奨学生たち



担当のヨンジャン先生が貸し出しをする

奨学生

現在は、11・12年生で16名の奨学生がいる。公立のわずかな学費を払うのも大変な家庭から選ばれている。女子が圧倒的に多い。

図書室

本の数は約700冊。1日の利用者は30~40人。休み時間に学生が図書カードを持って借りに来る。女子が圧倒的に多い。生徒たちが借りていた本は会計学、英語の教科書、詩集など。私たちが以前に寄付をした日本の風景の写真集が人気だそうだ。

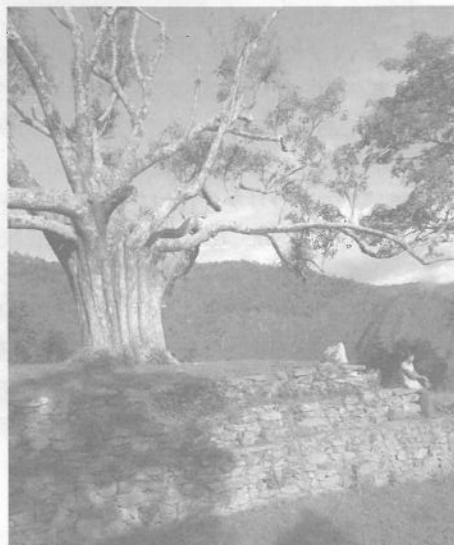
教師の住む村

今回訪れたマンガルタール集落は高校の裏の山道を登り詰めたところにある。タマン族ではなく、バフンという高い力の高い人達が住んでいる。ここは教師をたくさん輩出する村である。高校の校長先生や他の先生の多くがこの村に住んでいる。仏教を信仰するタマン族とは異なり、ヒンドゥー教を信じる。

「この地域で教師をするには、タマン語ができる生きていけない」と、山道を案内してくれた小学校の教師は言う。小学校低学年はタマン語を使って教えるとのことだ。先生も山道を登つたり降りたりして勤務校へ通う。ある中学校の先生は、片道3時間かけて遠くの村へ教えに行って30年になるそうだ。



収穫したウリやトマトを見てくれたチャンバおばさん



大きな木の下は、集落の憩いの場

識字教室

ピンタリ集落で女性たちの識字教室が2クラス開かれていた。

先生の一人は奨学生第1期生のラムシン君だった。町で仏画の修業をしていたが、空気の悪い町での暮らしが合わなくて村に帰って来ていた。夜8時ごろ、お母さんたちが次々と、借りている幼稚園の教室にやってくる。彼女たちは朝4時に起きて一日中働いているのに、その学習意欲はたいへんなものだ。

最初にひとりずつネパール語で自己紹介。とても楽しそうだ。その日のテーマは「家畜」。「牛の絵が書いてあるページを開いてください」ラムシン君はページ数を言わない。まだ数字を読めない生徒もいるからだ。一人ひとり正しいページを開いているか、近くまで行って確かめている。次に5~6人のグループに分かれ、家畜小屋と人が描いてある絵を見ながら、何が描かれているか話を話し合い、代表を決めて発表する。発表の後、ラムシン君は、「では、家畜小屋と住居が近くにあることのよい点と悪い点について話し合ってください」と言う。

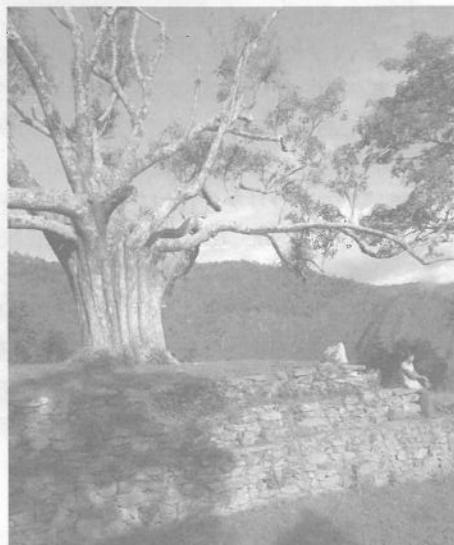
確かに、この村では、家畜と人とが一緒に暮らしている。家畜の世話で朝が始まり、一日えさに気を配る。水牛の乳をしぼり、牛糞と土を混ぜたもので床や壁を清める。庭にはやぎやにわとりが歩き回る。水が家畜の糞などで汚染されることも多いのだろう。衛生には気を遣わなくてはならない。そんなことを生徒から引き出していた。



デブラン物語を読んだ後で 右が講師のラムシン君

野菜トレーニング

各地区から選ばれた9人が野菜トレーニングを受け、資金を借りて野菜栽培をおこなっていた。チャンバおばさんはとうもろこしの畑の周りにインゲン、トマト、うりなどを植え、かごに入れて町まで売りに行く。空になったかごには町で仕入れた物を入れ、村で売るというしっかりもの。



大きな木の下は、集落の憩いの場

時間割

時間 クラス	6:20~7:00	7:00~7:40	7:40~8:20	8:20~8:30	8:30~9:10	9:10~9:50
11年生	ネパール語	心理学	英語(必修)	休憩	教授法	英語(専門)
		会計学			経済学	経営学
12年生	教育評価学 マーケティング	英語(必修)	心理学	休憩	英語(専門) ネパール語	児童の発達と学習 経済学
			会計学			経営学

*授業は朝の6:20~9:50まで。午後は家の手伝いをする。

第9回「南北コリアと日本のともだち展」 日韓絵本作家対談「絵本で伝える平和」

10月23日～25日まで、東京青山こどもの城で「南北コリアと日本のともだち展」が開催された。地球の木も実行委員会に参加しているこの絵画展は、「今はまだ、出会うことの出来ないこの地域の子どもたちが、まずは絵を通して友だちになろう」と2001年に始まり今年で9年目を迎える。会場では日本、韓国、北朝鮮、在日コリアンの子どもたち40名が参加して作った共同制作「平和



共同制作の「平和の木」に見る

の木」のほか、「行ってみたいところ」をテーマに子どもたちが描いた絵230点が展示された。

また、24日には、「平和の木」作成の様子、ピョンヤンの学校での交流や現地の人々の様子などを映像で紹介したり、日・韓の著名な絵本作家の田島征三さん、柳在守（リュ・ジェス）さんの対談などのトークイベントもおこなわれた。田島さんは、今年のともだち展のピョンヤン訪問に同行しており、同じくピョンヤンを訪れたことのある柳在守さんとピョンヤンの人々や子どもたち、そして平和についての話をした。日本と朝鮮半島の関係は今年も難しい状況が続いている。この地域には絵を描いた子どもたちのように、それぞれに泣き笑い、日々を生きる子どもたちがいる。私たち大人は、この子どもたちにどのような未来を託すのか、この絵画展を通して考えるきっかけになればと思う。

（「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会 简井由紀子）

グローバルフェスタJAPAN2009



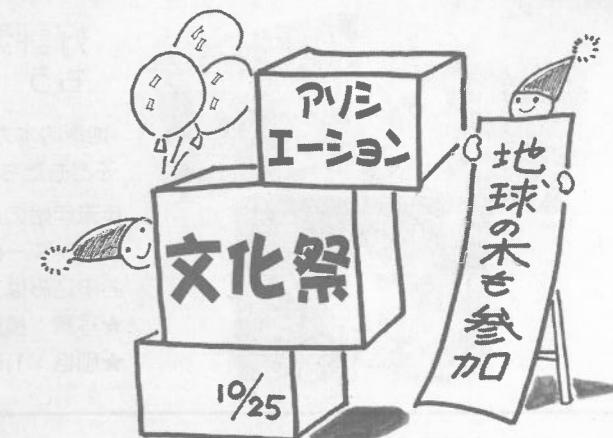
10月3～4日、日比谷公園は赤、青、黄の縞々テントに彩られる。日本最大規模の国際協力祭「グローバルフェスタJAPAN」には、日本中からNGOが集まり、大使館も軒を連ねる。目の覚めるような民族衣装をまとったアフリカの女性、身体をすっぽり覆って目だけ出す黒いチャドルの試着コーナー、世界屋台村などお楽しみが満載である。

「いつもお祭で人気のチヂミをグロフェスでも売ろうよ」というプランチからの声に励まれ、今年は初めてチヂミの屋台にチャレンジすることになった。2日間の祭だからボランティアを集めのも、食材を調達するのも大仕事である。しかし、そんな大変な仕事も楽しくこなしてしまうのが地球の木。

23人のボランティアの奮闘のお陰で、チヂミの屋台も、向かいの支援地グッズの店も大繁盛。若いボランティアの呼び込みに若い客層が集まり、カラフルな手編みの帽子を被ったり、おしゃべりに花が咲いた。4、5年前、学生の時、祭で地球の木のボランティアをしたという若い女性が訪ねて来てくれたり、スタディツアーの参加者が手伝いに来てくれたり、活動を続けてきてよかったと思う出会いが多くあった。

（理事 乳井京子）

アソシエーション文化祭



新横浜にある生活クラブ・オルタ館で行われたフォーラム・アソシエーションの文化祭、今年で5回目を迎えます。地域で仲間たちとさまざまな活動を行っているグループ（アソシエーション）が日頃の活動成果を発表し、互いに交流して更なる出会いやつながりが広がる機会になっています。

フォーラム・アソシエーションに運営委員として参加している地球の木も、持ち帰ったばかりのネパールのフェルトのバッグや小物、カンボジアの織物のマフラーなど販売を行ない、また、映像で支援先の様子などを紹介しました。

花や野菜から陶器までたくさんの手作りの物品や食物の販売、アクセサリー作りや、ショールの染色、また整体やアロマセラピーなど様々な体験コーナー、子どもたちが参加して遊べるコーナーなど、1階から5階まで30ほどのアソシエーションの仲間たちが楽しげに参加していました。

『家族をつなぎ、世代をつなぎ、人と人をつないでいく「食』』をテーマにしたスペシャル企画の会場では、いろいろな切り口でのパネル展示や実際のお弁当のおかずの紹介などもあり、その充実した内容に目を見張りました。

（会報作成チーム 沼田由美子）

『横浜下町パラダイス祭×多文化映画祭』 in シネマ・ジャック&ベティ

横浜最後の名画座と呼ばれる「シネマ・ジャック&ベティ（J & B）」をご存じですか？実はこの映画館、地球の木のコーヒー・紅茶などを販売してもらっている協力関係にあるのです。今年の夏、この映画館をメイン会場に不思議なまつりが開催されました。

このまつりを仕掛けたのは、「ART LAB OVA」というアート集団。彼らはこれまで、まちのいろいろな「場」や「出来事」を通じてアートプロジェクトを仕掛けてきました。またJ & Bは、もともと黄金町界隈の街おこしに関わっていた若者たちが、一旦閉館した映画館を任され、新たな感性と手法で再出発したものです。そして、古くからの商店街であり、近年は多文化な住人・商店が急増している伊勢佐木町・若葉町。これらをうまく結びつけることが出来たら、素敵なイベントができるんじゃないか。「街」に関わるうちに、横浜の下町には實にたくさんの中国籍や外国につながる人々・子どもたちが生

活していることに気づいた彼らは、「アートと映画で多文化共生のまちづくり」というコンセプトのイベントを打つことにしたのです。

イベント協力団体となった地球の木は、まつりの初日（8/22）と最終日（8/30）の2日間、「ラオス風タピオカミルク」「ラオスコーヒー」「大作おじさんの手作りケーキ（前理事の米林氏がソーラークッカーで焼いた自家製ケーキ）」を擁して『アジアンカフェ屋台』を出店しました。当日、屋台に飾られた前衛的なアートにとまどいつつ（ゴミと間違えて捨てそうになった）、ラオスチーム有志メンバーは、アートの世界の人々や、多文化な人々との「コラボレーション」を堪能しました。これから地球の木の国内活動に、新たな視点・多様な視点を与えてくれたイベントだったと言えるでしょう。

（副理事長・まつり実行委員 斎藤 聖）

活動日誌（9月～11月抜粋）

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|--|
| 9月 3日 | 代表者会議 | 23～25日 | 南北コリアと日本のともだち展（こどもの城） |
| 5・6日 | 横浜国際フェスタ2009出店 | 25日 | アソシエーション文化祭参加（オルタ館） |
| 10日 | 第5回理事会 | 27日 | 第5回プランチ連絡会 |
| 11日 | JVCラオス・グレンさん帰国報告会 | 30日 | 中間監査 |
| 12日 | ATJシンポジウム参加 | 31日 | 小田原センターまつり出店（西湘） |
| 14日 | 第4回プランチ連絡会 | 11月 4日 | 第7回理事会 |
| 16日 | 地球の木サロン「Tea&Talk」 | 5日 | ネパール語講座（幸せ分かち合いチーム） |
| 24日 | プロジェクト連絡会 | 7・8日 | 市民活動交流まつり（カッコーエフェスタ'09）（県央） |
| 27日 | ひらつか市民活動センターまつり出店（西湘） | 13日 | つるみ文化祭出店（とうぶプランチ） |
| 27・28日 | アジア学院訪問（西那須野アジア学院）（ラオスチーム） | 14日 | ワークショップ「援助する前に考え方」
(講師 田中治彦さん)（技能文化会館） |
| 30日 | 地球の木サロン「実践英会話」 | 18日 | ネパール語講座（幸せ分かち合いチーム） |
| 10月 | | 19日 | 地球の木サロン「実践英会話」 |
| 3・4日 | グローバルフェスタJAPAN2009出店（日比谷公園） | 22日 | かまくら国際交流フェスティバル出店（三浦） |
| 3～14日 | ソーラーパネル設置の為のネパール訪問 | 28日 | 報告会「ネパール教育支援プロジェクト12年間の軌跡」
(市民活動支援センター) |
| 6日 | 第6回理事会 | | 地球の木サロン「エッセイ修行」 |
| 8日 | 地球の木カフェ・ネパールミニ報告会 | | オルタ館まつり参加 |
| 10日 | ネパール報告会（ネパール料理店スンガバにて） | | |
| 14日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」 | | |
| 21日 | ネパール語講座（幸せ分かち合いチーム） | | |

INFORMATION

★地球の木のプロジェクトはあなたの会費で支えられています



好評発売中！地球の木カレンダー2010 もうお申し込みになりましたか？

地球の木カレンダー2010は、長倉洋海さんが生き生きと生活している子どもたちを撮った「子どもたちの大地」です。

年末年始のご挨拶に、クリスマスの贈り物にぜひご利用ください。
カレンダーの収益は、ラオス・カンボジア・ネパールの支援に使われます。
お申込みは、メール、電話、FAXにて事務局まで

★写真：長倉洋海 ★サイズ：56cm×38.5cm（使用時）

★価格：1,500円 ★制作元：JVC

年末募金キャンペーン

今年も年末募金を行います。皆さまの温かいご協力をお願いいたします。

※詳しくは、ちらしをご覧ください。



オープンOFFICE 地球の木カフェ クリスマスフェア

日 時：12月16日（水）11:00～18:00
場 所：地球の木事務所（JR関内駅南口下車徒歩1分）

ネパールのフェルトのバッグやカンボジアの訓練センターの小物、ラオスの手織りのストールなど、プレゼントにいかがですか？

手作りのお菓子やお茶もあります。

スマトラ沖地震緊急救援を おこないました

2009年9月30日にインドネシア西スマトラ州パダン市の沖合いで、マグニチュード7.6の大きな地震が発生しました。死者1,115人、負傷者は2,902人、損害を受けた家屋数は27万9千戸以上と公表されています。（10月13日現在）

地球の木では、「日本インドネシアNGOネットワーク（JANNI）」を通じて、被害の大きかったパダン・パリアマン県とアガム県で、現地NGO「Qbar（キバール）」が実施する住民の生活基盤の再建への支援をおこないました。（緊急救援の予算から10万円を送金）

10月、11月のおまつりやイベント、HPなどで募金を募りました。皆様、ご協力ありがとうございました。



書き損じハガキ 未使用切手 引き続きよろしく！

書き損じはがき、未使用切手をたくさんの方々よりお寄せいただきました。ありがとうございます。引き続き受け付けておりますので事務局までお送りください。

地球の木講座2009

田中 優の…未来への投資 こうすれば得する生活術

「社会がよくなるお金の使い方」

「あなたが得するお金の活かし方」

…教えます！



私たちの暮らしと切っても切れない「おカネ」。その「おカネ」を《持続可能な私たちの未来》のために使うには？「目からうろこ」の話です。

日 時：2010年2月6日（土）13:30～16:00
会 場：万国橋会議センター402号室

（JR桜木町駅・関内駅下車徒歩10分、みなとみらい線馬車道駅下車徒歩4分）

参加費：1,000円（地球の木会員は900円）

定 員：70名（申し込み先着順）

申し込み・問い合わせ：地球の木

※詳細は、ちらしをご覧ください。

地球の木 ネパール・スタディツアー2010 五色の旗たなびくタマン族の村を訪ねる

日 時：2010年3月14日（日）～22日（月）8泊9日

訪問地：ネパール カトマンズ、カブレ郡ドゥリケル
およびマンガルタール村

参加費：21万円（航空運賃、諸税、現地交通費、宿泊費、食費、プログラム費、コーディネート費を含む。
燃油特別付加運賃、海外旅行傷害保険、日本国内の交通費は含まず）

会員でない方は初年度会費が必要となります。

対 象：テーマに関心のある健康な方

内 容：訪問する村は、カトマンズからおよそ75kmの山あいの村。仏教のタルチョーの旗が旅人を迎えます。文化を守りながら村人主体の村づくりをめざす先住民タマン族の村にホームステイし、幸せを分かち合う旅です。

定 員：10名（先着順）最少催行人数：5名

申込み締切り：2010年2月5日（金）

説明会：2009年12月19日（土）／2010年1月24日（日）

11:00～12:30 地球の木事務所にて

旅行企画・実施：風の旅行社

現地プログラム企画：地球の木

申込・問い合わせ：地球の木

★ボランティア募集！

発送作業、イベント手伝いなど

